

魅力的な応援とは

土浦第一高等学校

2年C組 須藤結子

指導教諭:岡部真二先生 廣岡大介先生

【abstract】

In recent years, cheering for sports has become a hot topic. We were interested in what kind of cheering is good for both the players and the cheering spectators. Therefore, we hypothesized that “a lively cheer is a good cheer for both sides. We actually watched other schools’ cheering and interviewed people involved in the cheering groups of each organization to hear how the cheering audience felt. We also conducted a questionnaire to the actual cheering audience to find out what kind of cheering they thought was effective and to consider the effectiveness of cheering. Then, as a summary of this survey, we will suggest the next baseball cheering.

【要旨】

近年、スポーツの大会で応援が話題として取り上げられることが多い。そこで私は、どのような応援が選手にとっても応援する側としても良いものなのか気になった。そこで、「盛り上がる応援が双方にとって良いものであるのではないか」という仮説を立てた。実際に他の学校の応援を見たり、様々な組織の応援団関係者へのインタビューを行ったりすることで応援する側の人たちが感じていることを聞いた。また、実際にどのような応援が効果的だと思うのか、応援される側にアンケートを行い、応援の効果について考える。そして今回のまとめとして、次回の野球応援の形を提示する。

1. 序論

【探究動機】

私は本校の応援指導部に所属している。夏の野球の大会時に中心となって応援を行うのだが、前回の野球応援に関して多くの後悔が残った。コロナ禍が明け、学校ごとに特色のある応援の形が近年、全国高等学校野球選手権大会の応援が話題になっている。そして、一昨年の優勝校である慶應義塾高等学校の主将:大村昊澄選手が優勝後のインタビューで、「自分たちが持っている実力プラスアルファの力をこの大きな応援が与えてくれました。自分たちの力だけじゃなくて、応援して下さった全ての人のおかげで優勝だと思っています」と言っていたこと。また、前回大会の県大会予選に行った際に他校の選手が「うちの学校の応

援、誇りなんです」と言っていたことから、応援される人の実力を最大限、もしくは実力以上のものを引き出せる応援、応援される人に誇りに思ってもらえる応援とはどのようなものなのか気になった。

【仮説】

応援が盛り上がれば、その場の空気が自分たちのものとなり、それによって良い流れを引き寄せやすくなると思う。また、盛り上がることで応援のボリュームや迫力が大きくなり、選手まで届きやすくなり、結果、選手の気分をのせることができると思う。したがって、応援が盛り上がることで選手の力を最大限に発揮するために大切なのではないか。

2. 本論

【調査方法】

- a, 学校の応援指導部、日本全体での応援の歴史を学ぶ
- b, 他的高校の応援を見て、応援関係者へのインタビュー調査
- c, 私設応援団の方々へのインタビュー
- d, 応援される側へのアンケート調査

【研究結果】

a, 学校の応援指導部、日本全体での応援の歴史を学ぶ

日本の最初の学生応援団は1890年に自校の運動部の対抗試合を応援するために現在の東京大学と一橋大学が組織したものであることがわかった。1903年に野球の早慶戦が始まり、その後、早稲田大学と慶應義塾大学にも応援団ができた。当時の応援団の応援は現在のものとは異なり、当日来場した人に扇子をふりかざし、拍手を促すようなものだったそうだ。そして、1929年に慶應義塾大学が「若き血」を、1931年に早稲田大学が「紺碧の空」を作り、両校に伝統ある応援歌ができた。戦後応援曲が多数でき、これが高校野球にも影響し、多くの学校で吹奏楽を中心とした応援が始まった。

一高の応援指導部は今年で創部61年目を迎える。本校の応援は早稲田大学の応援が基になっていて、現在チャンスの際に使う曲等が早稲田大学と同じである。

b, 他的高校の応援を見て、応援関係者へのインタビューの調査

高校野球、大学野球の試合を実際に見に行った。迫力のある応援をするチームは学校の生徒の応援の認知度が高いと思った。ほんの数回しか球場で応援する機会がないことなので、生徒もたくさん練習を行っているのだろうと思い、茨城県立下妻第一高等学校の応援指導部の団長の方に試合後にお話を聞くと「全校での応援は定期戦という茨城県立水海道第一高等学校との伝統ある戦いの前に1度やるくらい。」という回答だった。

また、小物や衣服などで一体感を出したり、1曲1曲に部員だけでなくその他の生徒にもメガホンを使った動きがあり、それによって一体感が増しているように感じた。

そして、六大学野球の試合を見に行った際に慶應義塾大学の応援指導部の1、2年生へインタビューを行った。応援にどうしたら興味を持ってもらえるか、どのような心がけや呼びかけを行うと多くの生徒や観客に応援に積極的に参加してもらえるのかを知るヒントを得るために以下の①②の2つの質問をした。

- ① どうして応援指導部へ入部したのか。

これに対しては、2人ともともと応援に興味や縁があったと答えた。また、最終的な決め手は実際の組織の雰囲気だと言っていた。これらのことから、興味を持ってもらえるような魅力を見せることが必要だと思った。

② 応援を行う際何を心がけているのか

これに対しては、1人は「一緒に応援してくれている人についてきてもらうこと」と答えた。応援のやり方を広める際だけではなく、回間の煽りの際にも特に言葉遣いに気をつけているそうだ。また、違う人は「勝ちにこだわること、なんのために応援をしているのか」と答え、そして「勝ちたいという思いによって動作が変わり、周りへのアプローチも変わっていくと思う。」と答えてくれた。

加えて、観客席での曲の順番や選手の名前の交代などの伝達方法についても気になっていた。聞いてみると、下の方から1番上、1番上から真ん中あたり、の3箇所にはボードと部員が置かれ、スムーズな伝達が行われているそうだ。また、各応援歌の使い所についても聞いてみると、テンプレートを見せてもらうことができた。それぞれの曲は使い所がある程度決まっていて、曲の流れが確立されていた。

c, 私設応援団の方々へインタビュー

夏休みに仙台で事業所訪問を行った。その際私は、

①東北楽天ゴールデンイーグルスの私設応援団の団長の信夫さん

②青空応援団の団長の平さん

のお2人にお話を聞くことができた。

盛り上がる応援とはどのようなものなのかそれぞれに質問をした。

①東北楽天ゴールデンイーグルスの私設応援団の団長の信夫さんから、

- ・応援歌の認知が大切

→特にチャンスの時の曲は全員がわかっていると一層盛り上がる

- ・少しでもプラスの動きがあったら積極的に声を出して盛り上げることで流れが向いてくる
- ・観客への伝達のわかりやすさが応援の盛り上がりにつながる

とお話ししていただきました。

②青空応援団の団長の平さんには、

- ・盛り上がる応援というのは望まれている応援であること

→望まれるためには応援する側の人間性が大切

→普段の生活や人との関わり方を大切にする

実際に上記のことを平さんが徹底した結果応援依頼がくるようになったそうだ。

また、「応援される側が恥ずかしいと思うような応援は応援する側が悪く、絶対にそのような思いをさせるようなことをしてはいけない。」とお話をしてくださった。日々の生活や人との関わり方を丁寧にすることで、応援したいと思ってもらえるようになる。そしてお2人からSNSを有効活用することで周りへの認知度が高くなるから、使えるものは適切に効果的に使うようお話があった。そこで、応援指導部として元々あったInstagramをリニューアルした。そして、学校行事の委員会や部活動や個人から募集を募り、野球部だけでなく他の部活動も大会前に出来るだけ多くの生徒が認知し、学校全体が一丸となって応援できるようInstagramのストーリーという機能を活用した(下図)。



引用：茨城県立土浦第一高等学校応援指導部公式Instagram:ouen.tsuchiura1

周りからに話などから前よりも存在感が増しているように感じる。

d, 応援される側へのアンケート調査 (n=174)

本校の硬式野球部20名とSNSで呼びかけた不特定の154名、計174名にアンケート調査を行った。SNSを用いてアンケートを行ったため、回答者の年代について質問した(図1)。また、自身の経験に基づいた応援についての質問をするため、前提としてスポーツをやっているか、もしくはやっていたかを質問した(図2)。

図1: 答えていただいた年代

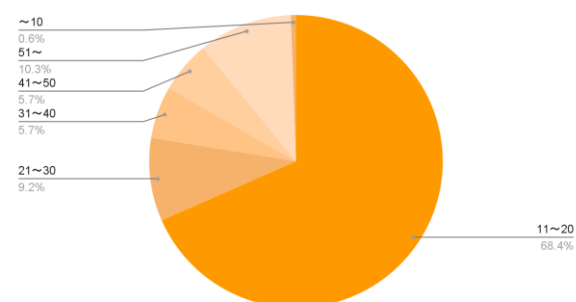


図2: スポーツをやっている、またはやっていたか

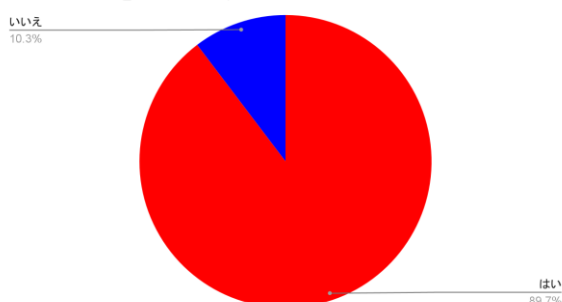
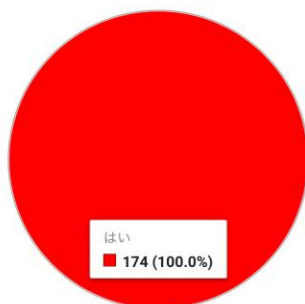


図3: 様々なスポーツの試合などで、応援があるのとないのと、試合の雰囲気は変わると感じますか



また、応援の効果を確認するために、様々なスポーツの試合などで、応援の有無で試合の雰囲気が変わると感じるか質問をした(図3)。左のグラフから分かるように、この質問については174人全員が“応援の有無で試合の雰囲気が変わると感じる”と回答したため、応援の効果を確認することができた。

そして、最も応援する側に聞いたかった、何かをする場面で応援があることでいつもより良い結果が出ると思うかを質問すると下の図4の結果が得られた。結果は「はい」と答えた人が7割を超えていた。私は「いいえ」の割合が3割程度いると思っていたので驚いた。特に、本校の硬式野球部だけに関しても言えば、20名全員が“応援があることでいつもより良い結果が出ると思う”と答えた(図5)

図4:自分自身、何かをする場面で応援があることでいつもより良い結果が出ると思いますか

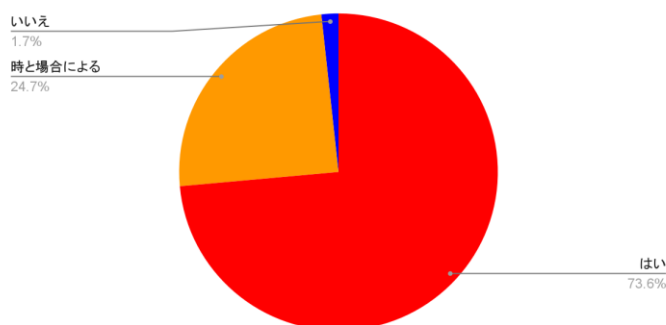
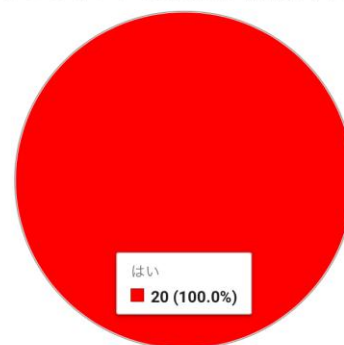


図5:応援があることでいつもより良い結果が出ると思いますか



この質問とともに答えた内容ごとに、任意回答でそう影響している理由も聞いた。

○はいと答えた人

- ・応援によって緊張がほぐれたり、試合だけを考えられるので集中できる
 - ・応援してくれる人がいることで前向きな気持ちになれる
 - ・味方がいるという安心感がある
 - ・誰かのためという他喜力
 - ・攻撃の士気が上がる
 - ・自分の出番では聞こえないが、その前に聞こえることで頑張ろうと思える
- など

○いいえと答えた人

- ・自己肯定感が低いため、応援されると申し訳ない気持ちになる
 - ・競技に集中している時は応援の声は聞こえない
 - ・見られているという意識で身体が固まる
 - ・普段の練習と違うものがあると狂う
- など

○時と場合によると答えた人

- ・集中したい時は逆に気が散る

- ・応援によって良い結果をもたらすこともあるが、過度なプレッシャーとなるとかえって悪い結果を招く
- ・会場の雰囲気慣れているか慣れていないか
- ・今までの練習を見てきた人からの応援とその場限りの応援では全然違う など

加えて、本校の硬式野球部のみにどのような応援が自分のパフォーマンスを高めるかという質問をした。様々な回答があったが最も多かったものが「一体感のある応援」というものだった。

【考察】

aの歴史からは私たちの応援の形は現在の高校野球というより六大学野球の応援の流れに近く、現在の私たち高校生が想像する応援とは異なる形であるため、多くの生徒に興味を持ってもらうためには、伝統を守りつつ最近の曲を取り入れていく必要もあると感じた。

bの他の学校の応援やお話からは一緒に応援する人たちの応援歌などの認知度をあげることや興味を持ってもらうことが大切だと思った。また、部員以外の人にも動きをつけることで迫力が増すことがわかったので、夏までに曲ごとに振り付けを考え、発信していこうと思う。また、私たちの応援の目的を再確認しようと思う。

cの私設応援団の方々からのお話から、チャンスの時の曲など特に大事なものはちゃんと伝えることが大切だとわかった。また、自分の人間性を磨き、応援してもらいたいと思えるようになりたいと思った。

dのアンケート結果からは応援の力は試合において大切だと感じている人が多いことがわかったが、その場限りの応援や変にプレッシャーを与えてしまう恐れもあるので、実際に会場に出向いて応援する場合にはその場限りではなく、その前から少しずつ関わり応援されたいと思われることが大切だと思った。

【まとめ】

60年の歴史ある応援団であるため、伝統を守りつつ新たなことを取り入れていく。特に盛り上がる応援は望まれていることだと実際に応援をしている方に言われたので、それができるように人間性を磨く。また、多くの人への認知も重要なので、SNSを有効的に活用し、動きを考えていく上で魅力を感じてもらえるようなものにする。盛り上がる応援とは、応援される側が望み、自分の気持ちが高まるもの。応援する側は心から応援したいと思う気持ちを声や行動で示すものだと思った。次の硬式野球部の夏の大会では、硬式野球部からは応援されたいと思われるような存在となり、応援する側である生徒や地域の方々が全力で盛り上がって応援できるよう、振りを考え、部員が完璧にできるようにし、例年より早い時期から発信、伝達していこうと思う。私自身としては、認知や伝達が事前の段階も当日も円滑にできるようにする方法を教えてもらったので、実践できるようにする。

【今後の展望】

今回の探究で応援の効果があることはわかったが、本来の目的とは反対にプレッシャーに感じ、練習通りの成果を出せないことがあるので、どうすればプレッシャーを感じず、応援される人全員が自分のベストパフォーマンスを発揮できるかを考えていく。

【謝辞】

試合で応援をしていた皆様、団長をはじめとした茨城県立下妻第一高等学校応援指導部の皆様、お話を伺った慶應義塾大学応援指導部の皆様、東北楽天イーグルス私設応援団団長の信夫さん、団長の平さんをはじめとした青空応援団の皆様、アンケートに協力していただいた皆様、そして、指導して下さった先生方、大変お世話になりました。この場を借りて心から感謝申し上げます。

【参考文献】

立命館大学 応援団について 2024年8月3日 https://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/kiyou/14-2/RitsIILCS_14.2pp.187-197GRAEWE.pdf

慶應義塾大学 応援指導部ホームページ 2024年8月3日 keio-cheer.com/history/

早稲田大学 応援部ホームページ 2024年8月3日
<https://www.waseda.jp/inst/athletic/club/cheerleading/>

サンスポ 2018年

熱響甲子園！高校野球ブラバン応援研究家・梅津有希子氏が歴史と変遷を紹介 2024年8月3日
<https://www.sanspo.com/article/20180806-ZNNRBSYT7NPNRIWQH5Q547YKMM/?outputType=amp>